



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成31年3月11日NO. 130

「3月9日」

3月9日(土)、午前九時三十分、第三中学校の卒業式が琴の調べが厳かに流れる中、卒業生の入場で幕を開けた。今年の卒業生は、108名の3クラス。担任たちは全員女性の先生たちだった。

卒業証書授与のときの卒業生の返事は、やはり気になった。「ハイ」を大きな声で堂々と言う生徒もいれば、パイとすねたような素振りや小さな声の生徒もいたわけだが、まあしょうがない。ただ、去年よりも大きな声で返事をした生徒は多かった印象だった。



校長式辞では、中津校長が座右の銘としている「守・破・離」の言葉を贈られた。私も中津校長も高校の時、同じ剣道部に所属していただけにこの言葉を贈ろうという思いに共感した。



この「守・破・離」は、剣道や茶道などの世界で、修業のプロセスを端的に表した言葉である。すなわち、「守」は、師や流派の教えや型、技をしっかりと守りながら、確実に基本的なことを習得する段階である。次に、「守」の段階を超えると、「破」のステージへと上がる。他の師や流派の教えについて考え、学び、良いものを取り入れつつ、己の心と技を発展させていく段階のことである。そして、その段階も過ぎると、いよいよ最終段階の「離」となり、一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる段階となるのである。このことは、何も剣道や茶道だけの世界ではなく、子どもたちの学びの姿である「習得・活用・探求」と酷似しているのではないだろうか。

教育委員会告示や来賓祝辞、来賓紹介、在校生代表送辞と式は何事もなく進んでいた。異変(?)が起きたのは、卒業生代表答辞のときだった。男子生徒が壇上で卒業生を代表して答辞を読み上げているときだった。運動会や中体連、修学旅行など、思い出を語っているとき、感極まって肩を震わせ、声を詰まらせた。その様子を見ていた卒業生もそれを笑うのではなく、大粒の涙を流し始めたのだった。来賓席でも、自分も含め、思わず目頭を押さえる人がたくさんいた。そんな中、証書授与の時気になった女子生徒を探して見つけると、これまた涙を流している姿に安堵した。そして、もっと素直になっていいんだよと心の中でつぶやいた。

卒業生斉唱「仰げば尊し」、在校生合唱「流れゆく雲を見つけて」、そして校歌斉唱の美しい歌声が会場を包み、その余韻を残しながら閉式宣言。そのあとに卒業生たちが壇上にずらりと並んで、参列者を見ながら歌うのが三中の伝統である。

♪
流れる季節の真ん中で ふと日の長さを感じます
せわしく過ぎる日々の中に 私とあなたで夢を描く
3月の風に想いをのせて 桜のつぼみは春へとつづきます
♪

レミオロメンの名曲で卒業式の定番ソング「3月9日」である。美しい合唱に、彼らの三年間がこの調べに凝縮されている気がして、また目頭が熱くなってきたことをこらえることができなかった。

